

平成28年度 社会福祉法人弘英会 事業報告

平成28年度は改正福祉法が施行され、経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化、地域における公益的取組の責務化など、社会福祉法人制度改革の本格的な取組が行われました。

当法人は「社会福祉法人制度改革に向けた体制作り」を平成28年度の事業計画として、評議員選任・解任委員会の立上げ、評議員の選任、定款（細則）の変更、経理規程等諸規定の制定・変更を進めてまいりました。

今回新たな責務として位置づけられた「地域における公益的取組」については、東須磨あんしんすこやかセンターを開設（平成29年4月1日より営業）したことで、早速その一歩を踏み出すことができました。

締め切り・事務処理に追われた平成28年度でしたが、振り返り、今般の改革は、独立採算の色合いが濃かった神出・須磨両施設の一体化を図っていく上で、重要な指標を標してくれ、また、改めて社会福祉法人の「経営の質の向上」が社会から求められていることを認識しました。

平成28年度事業内容を統括して報告します。

《平成28年度事業計画》

- 1 定款の変更
- 2 評議委員（7名）の選任（評議員会の設置）準備
- 3 理事・理事会の権限、選任に係る規程の準備
- 4 監事の選任準備
- 5 会計監査人の設置準備
- 6 社会福祉法人の財務規律への対応

1 定款の変更

- 平成28年11月21日（第2回理事会）
定款の変更（案）承認（第1回）
神戸市へ申請するも、理事長専決事項が重たいとのことで却下される。
- 平成29年3月8日（第3回理事会）
定款の変更（案）承認（第2回）
神戸市監査指導課指導の下、変更（案）を作成し議事に諮る。
- 平成29年3月27日（神戸市監査指導課）
定款変更認可申請の決裁を受理。

2 評議委員（7名）の選任（評議員会の設置）準備

- 平成28年11月21日（第2回理事会）

評議員選任・解任委員会運営規程（案）の承認

評議員選任・解任委員会の委員選任

監事1名 外部委員1名 事務局員1名 以上3名

評議員選任候補者の推薦

学識経験者4名 地域の福祉関係者3名 以上7名

○ 平成29年3月8日（第3回理事会）

評議員選任候補者の推薦（候補者の変更）

学識関係者1名

○ 平成29年3月27日（第1回評議員選任・解任委員会）

評議員の選任

学識経験者4名 地域の福祉関係者3名 以上7名

3 理事・理事会の権限、選任に係る規程の準備

○ 平成29年3月8日（第3回理事会）

理事の退任、新理事の選任（4月1日より）

（退任）2名 （新任）学識経験者2名

定款細則の変更（案）承認

理事会権限については定款細則に謳う。

4 監事の選任準備

○ 平成29年3月8日（第3回理事会）

現役員の任期は平成29年11月21日までとなっているが、法改正により新評議員による評議員会開催（6月予定）までが任期となる旨を説明。継続就任を要請。

5 会計監査人の設置準備

設置基準に該当せず。

6 社会福祉法人の財務規律への対応

○ 平成29年3月8日（第3回理事会）

経理規程の一部変更（案）承認（社会福祉充実計画に関する規定の追加）

社会福祉充実残額の試算（平成27年3月期決算）

残額なし。

○ ㈱日本経営との会計コンサルタント契約（平成29年4月開始）

会計監査人の設置、財務の健全化・透明化に向けた体制作り。

平成28年度神出シニアコミュニティ事業報告

神出シニアコミュニティの28年度事業計画は中・長期事業計画を柱として、

1. 人材育成の体制整備・強化
2. 労務管理・職場環境の改善
3. 安定収益の確保・財務の健全化・透明化
4. 地域貢献事業への積極的な取組 に重点を置き事業展開してきた。

1. 人材育成の体制整備・強化

- ・ 平成27年4月より外部講師を招聘して開講している「上級介護職員養成講座」を当年度も開講。指導できる職員の育成と介護技術の平準化を図るべく、介護主任と副主任をメインに毎月受講した。

不適切なケアについての改善意識、利用者・介護職員に負担の掛からない介護技術の取得意識は日々高まってきている。

- ・ 教育専門担当者を配置し「新人教育」「2～3年目職員」「中堅職員」についてもフロアでの指導方法、内部・外部研修への参加等教育システムの構築に取り掛かっている。
- ・ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度については教育担当者が中心となって着手している。
- ・ 有期契約職員も育成対象とし、正社員への転換を就業規則に謳い、28年度は3名の職員を正社員として迎え入れた。
- ・ 別紙参照

2. 労務管理・職場環境の改善

- ・ 適切な人員配置を図るべく採用に努力してきたが、退職者を補うだけの採用しか出来なかった。

採用手段が人材紹介会社中心となったことで、業務委託費が前年より5百万円増加した。ただし、若返りを図るべく若年層を中心に採用を行ってきたことで、40代であった介護職員の平均年齢は、30代半ばへと若返り、課題も多いが、職場の活性化には繋がっている。

- ・ 退職理由に病気が要因の退職者が増えていたことから、職員の衛生管理に力を入れるべく、労働安全衛生委員会の活動の他、事務職員が労働安全衛生士の資格を取得し、職員の相談業務に関わり、労働環境改善に努め、勤務変更・休日の付与等でき得る限りの改善に努めてきた。

3. 安定収益の確保・財務の健全化・透明化

- ・ 口腔ケアにより誤嚥・肺炎等のリスク軽減を図ることを目的とし、28年度より舞子坂ファミリー歯科に協力頂き、歯科相談を実施している。

現在、週1回歯科衛生士による利用者の口腔ケアを実施している。介護職員も帯同し手法を学んでいる。

利用者の健康管理に一層の注力を図ったことで、インフルエンザ患者は0名で、年度を通して入院患者は前年比半減となった。

- ・ 看護職員の入れ替えが多く、服薬事故が多発したことで、看護職員が業務に慣れるまでの12月から翌年3月にかけてショートステイの利用を調整（減員）した。これにより稼働率の低下を招いたが、服薬事故は解消し、利用者の入・退所時への対応は落ち着いた。

4. 地域貢献事業への積極的な取組

- ・ 「まちの保健室」から呼称を「ほっとシニア倶楽部」に変更し、神出自治会長・老人クラブ代表とも話し合い、「地域の足」をメインに試行錯誤を繰り返す。28年度は、演劇鑑賞と温泉旅行の企画・足として事業を展開。今後も、地域は何を求めているか？を常に意識し、課題を持って取り組んでいく。
- ・ 神出町内の特養が集まり地域貢献事業の一環として、地域民生委員が開催している「ふれあい会食会」の利用者送迎を受け持つこととした。今後も定例会を開催し、地域の課題を議題に、貢献事業へ取り組んでいく。

以 上

＜ 別 紙 ＞

～ 職員数 ～ (平成29年3月31日時点)

総人員 : 正 職 54名 (内 男子19名 女子35名)
有 期 38名 (内 男子 6名 女子32名) 総人員 92名

○ 特別養護老人ホーム

介護職員 : 正 職 34名 (内 介護福祉士23名)
有 期 26名 (内 介護福祉士 9名) 特定医療行為 18名
生活相談員: 正 職 2名 (内 特養担当1名 SS担当1名)

介護支援専門員: 正 職 1名 管理栄養士: 正 職 1名

看護職員 : 正 職 3名 (内 正看護師1名 准看護師2名)
有 期 3名 (内 正看護師3名)

リネン職員: 有 期 3名

○ デイサービスセンター

職 員 : 正 職 8名 (内 介護福祉士4名 正看護師1名)
有 期 4名 (内 介護福祉士1名 准看護師1名)

○ ケアプランセンター

介護支援専門員: 正 職 2名

○ 本部

職 員 : 正 職 3名 (施設長 事務員2名) 有 期 1名

～ 事業概要 ～

○ 特別養護老人ホーム (100床)

年度平均稼働率 : 92.87% (27年度91.06%)

利用者平均年齢 : 86.72歳 (最高齢103歳)

平均介護度 : 3.93 (27年度4.04)

平均利用年数 : 2.65年 (最長16年)

○ ショートステイ (20床)

年度平均稼働率 : 102.88% (27年度102.45%)

利用者平均年齢 : 84.60歳

平均介護度 : 3.05

○ デイサービスセンター (35名)

年度平均稼働率 : 56.96% (27年度58.80%)

1日平均利用者 : 19.94人 (27年度20.58人)

○ ケアプランセンター (70件)

年度稼働率 : 76.68% (27年度60.42%)

年間介護給付件数: 504件 (27年度412件)

年間予防件数: 295件 (27年度191件)

特養生活相談員（28年度）事業報告

生活相談員
東谷 友和

《 事業内容 》

1. 実質稼働率 92.87%
2. 人材の育成・地域貢献を更にすすめていく

《 実績 》

1. 実質稼働率 92.87%

（1） 人員管理

稼働率

(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働率	91.27	90.48	90.37	93.74	94.32	94.50	93.61	92.43	93.65	91.03	93.32	95.71	92.87
平均介護度	3.97	3.9	3.94	3.95	3.96	3.97	3.95	3.93	3.96	3.93	3.88	3.87	3.93

入所検討委員会の開催（定期：11回 随時：13回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入 所	3名	3名	2名	4名	2名	1名	1名	2名	3名	2名	5名	2名	30名
退 所	2名	1名	4名	2名	1名	2名	2名	3名	4名	4名	0名	1名	26名

（2） 家 族

家族会の開催 6月家族会

（内容：老施連第3者評価について、苦情受付について、
施設での看取りについて、行事について）

カンファレンスの出席

- ・ 入退院・受診の病院、家族との日程調整
- ・ 利用者の入所中、入院中の状態連絡

（3） 行 事

- 行事の開催
- ・ 4月花見・5月創立記念日・8月盆踊り
 - ・ 9月敬老会・10月秋祭り・11月神出文化祭・12月餅つき
 - ・ 12月クリスマス会・1月ふれあい書道展出展
 - ・ 2月節分会・3月雛祭りお茶会

（4） 地域貢献・地域交流

- 11月神出文化祭への出展、参加
- 5月・7月にしあわせの村へ散策・ランチ

《 反省 or 検討 》

- ・職員のスキルやケア向上に取り組んだ結果として、前年に比べると入院者が減り、稼働率の向上に繋がったが、年間目標稼働率に達しなかった。
- ・入所検討委員会は定例会に加えて随時開催したが、退所された後の新入所までの日数がかかった。
- ・家族会は行事に併せて開催できたが、12月に餅つきに家族参加を予定し計画していたが、インフルエンザ（地域）の流行もあり、感染予防の為家族参加をお断りしての開催となった。
- ・家族会では、家族間の交流も図ることができ、行事にはたくさんの家族に参加頂け、「楽しかった」や「良かった」という声を多く頂いた。
- ・行事实績状況 ⇒ 別紙参照
- ・ドライブや外食等の外出行事の回数が少なかった。

《 29年度に向けて 》

- ・稼働率を向上する為に、老人保健施設・病院のMSW・居宅支援事業所のケアマネージャーとの連携を図り、新規利用者の紹介に繋げる。
- ・入所待機されている方の家族と連絡を密にし、状況、状態把握しておく。
- ・ショートステイ相談員と連携を深め、ショートステイ利用から入所に繋げる。また空床利用も有効に利用できるよう連携していく。
- ・昨年度、外出行事でしあわせの村へランチ、散策等行い、好評であった為今年度も外出行事を検討する。
- ・フロア毎の家族会を年間行事に盛り込む。

特養介護支援専門員（28年度）事業報告

特養介護支援専門員

池田 忍

《 事業内容 》

1. 他職種の専門性を繋げていく。
2. 他職種と協働でケアプランを立案する。

《 実績 》

- ・他職種がモニタリングシートの記入に慣れて、現況・問題点・提案事項等を具体的に記載できるようになり、カンファレンス開催時に検討する内容が焦点化できるようになった。
- ・新入所後1ヶ月の初回モニタリングは、副主任またはリーダーに依頼することで、生活上の問題点が明確になり、実施可能なケアプランが作成できるようになった。
- ・職員からは「職員間で意識付けるため、ケアプランに入れてほしい。」という意見が聞かれるようになり、協働でケアプランを立案できるようになった。
- ・カンファレンス協議時は、それぞれの職種の専門性を理解して、適切な職種に意見を求めるようにした。

《 反省 or 検討 》

- ・介護記録を記載する時に、ケアプラン内容が明確になるように短期目標の表現を工夫した。
- ・カンファレンス時に、自分の専門職としての意見が言えないチームメンバーがいるので、カンファレンスのあり方や自分の専門職を自己覚知して、カンファレンスの発言内容などを具体化していく。

《 29年度に向けて 》

- ・モニタリングの視点が統一できるように、モニタリングシートの記載例を作成する。
- ・カンファレンスにてチームメンバーが、利用者の現況・問題点・提案事項の要点をまとめて発言できるように、チームメンバーのカンファレンスでの発言力の向上を目指す。
- ・ターミナルケア（看取り介護）について、昨年度からの勉強会を継続して、当施設で実施する看取り介護の内容を具体的なものにして、マニュアル作成を進めていく。

特養介護職員 事業報告

介護主任
黒木 俊雄

《 事業内容 》

1. 人材育成の体制強化
2. 適切なケアの感性を身に付ける

《 実績 》

・施設内研修（外部講師招へい）

研修名	開催日	参加人数
上級介護職員養成講座	平成 28 年 4 月 16 日	6 名
	平成 28 年 5 月 6 日	6 名
	平成 28 年 6 月 3 日	6 名
	平成 28 年 7 月 8 日	6 名
	平成 28 年 8 月 5 日	5 名
	平成 28 年 9 月 2 日	4 名
	平成 28 年 10 月 7 日	5 名
	平成 28 年 11 月 4 日	6 名
	平成 28 年 12 月 2 日	7 名
	平成 29 年 1 月 13 日	5 名
	平成 29 年 2 月 3 日	5 名
	平成 29 年 3 月 10 日	5 名

延べ人数 66 名

・施設内研修（教育担当）

研修名	開催日	参加人数
3 年目介護職員研修	平成 29 年 2 月 12 日	2 名
	平成 29 年 2 月 22 日	2 名
	平成 29 年 3 月 21 日	2 名

延べ人数 6 名

・施設内研修（舞子坂ファミリー歯科 歯科衛生士）

研修名	開催日	参加人数
口腔ケア指導	毎週水曜日	4 名ずつ

・外部研修

研修名	開催日	参加人数
神戸市高齢者介護士講習会	平成 28 年 5 月 29 日 6 月 14 日 6 月 26 日 7 月 14 日	2 名
社会福祉施設 新任職員 共通研修	平成 28 年 5 月 27 日	2 名
感染症の予防及び発生時の 対応基礎研修	平成 28 年 6 月 10 日	1 名
三好 春樹の明日から 使える実践介護技術	平成 28 年 6 月 11 日	2 名
神戸市老施連主催 接遇指導者研修	平成 28 年 6 月 27 日 7 月 25 日 9 月 26 日 10 月 24 日 11 月 28 日 平成 29 年 1 月 23 日 2 月 27 日	2 名
福祉現場の OJT 活用術	平成 28 年 9 月 3 日	2 名
介護記録の基本とケアプラン に沿った記録を書く	平成 28 年 9 月 13 日	2 名
法令遵守・職業倫理などに 関する職員研修	平成 28 年 9 月 24 日	1 名
介護事故予防・事故事後対 策研修	平成 28 年 11 月 11 日	1 名
みきやま地域交流会「疥癬 の診断と治療について」	平成 28 年 12 月 13 日	3 名
介護士会「食事の形態に ついて～刻まない食事・ ソフト食について～	平成 28 年 12 月 13 日	1 名
老施連主催 虐待防止研修	平成 29 年 2 月 15 日	2 名

延べ人数 21 名

・施設内研修(サービス向上委員会)

研修名	開催日	参加人数
感染症・事故報告書について	平成 28 年 6 月 20 日 平成 28 年 6 月 21 日	52 名
高齢者虐待防止研修	平成 28 年 7 月 12 日 平成 28 年 7 月 13 日 平成 28 年 7 月 19 日	91 名
生活支援技術を行う際の ポイント	平成 28 年 9 月 14 日 平成 28 年 9 月 19 日	46 名
口腔清拭の重要性・ ポイント説明、実技	平成 28 年 10 月 24 日	19 名

感染症予防・対応について	平成 28 年 11 月 9 日 平成 28 年 11 月 21 日	52 名
心肺蘇生法の知識、方法を学ぶ	平成 28 年 12 月 19 日	29 名
高齢者虐待防止研修	平成 29 年 2 月 14 日 2 月 15 日 2 月 20 日	90 名
認知症ケア研究発表会	平成 29 年 3 月 21 日	39 名

延べ人数 418 名

・クラブ活動

クラブ名	開催日
茶道クラブ	平成 28 年 4 月 9 日 5 月 14 日 6 月 11 日 7 月 10 日 8 月 13 日 9 月 10 日 10 月 8 日 11 月 12 日 12 月 10 日 平成 29 年 1 月 14 日 2 月 11 日 3 月 11 日
書道クラブ	平成 29 年 6 月 21 日 7 月 19 日 8 月 16 日 10 月 18 日 平成 29 年 1 月 17 日 2 月 21 日 3 月 21 日
音楽セラピー	平成 28 年 4 月 15 日 5 月 20 日 6 月 17 日 8 月 19 日 9 月 16 日 10 月 21 日 11 月 18 日 12 月 16 日 平成 29 年 1 月 20 日 2 月 17 日
化粧クラブ	平成 28 年 4 月 13 日 4 月 27 日 5 月 25 日 7 月 27 日 8 月 24 日 10 月 26 日 11 月 9 日 12 月 13 日 平成 29 年 1 月 25 日 2 月 22 日 3 月 22 日
生花クラブ	平成 28 年 4 月 22 日 5 月 27 日 6 月 24 日 7 月 22 日 9 月 23 日 10 月 28 日 11 月 25 日 12 月 23 日 平成 29 年 1 月 27 日 2 月 24 日 3 月 24 日

その他 踊り教室・映画会・カラオケクラブ 随時開催

《 各フロアの目標・反省 》

<本館 1 階>

ご利用者の気持ちに寄り添ったケアを行い、ご家族との関わりを積極的に持つ
⇒ご利用者のその人に合ったケアの見直しやその人の立場になっての関わりを
持つよう努めた。ご家族の面会時に最近の生活状況等の報告をしている職員も
以前と比べ増えたと感じる。

<本館 2 階>

上級介護職員養成講座で知り得た知識、技術をスタッフ間、共有し実践していくことで、介護技術の向上を目指す

⇒日々の業務の中で介護技術を指導することは難しく、行き届いた指導ができなかった。スライド移乗する機会が増えているため、個々の介護技術資質向上を今後もフロア全体で取り組んでいく必要がある。

<北館 1 階>

状態に合わせたケアの見直しを行い、ケアプランに反映するよう提案していく

⇒今後も状態に合わせたケアの見直しを行いケアプランへの反映に努めていく。

<北館 2 階>

温もりのある居室環境を整え、リハビリを兼ねた体操レクリエーションなど余暇活動の充実を図る

⇒居室の写真の入れ替えができなかった。レクリエーションは毎日とは言えないが、歌に合わせての体操など実施している。レクリエーションが実施できない日は歌謡ショー等来期も余暇活動の充実を図っていく。

《 反省 or 検証 》

- ・上級介護職員養成講座は、27 年度に続き、主任・副主任が受講した。職員、利用者が互いに負担のかからない移乗方法を主に学んだ。2 名介助の移乗はスライド式を取り入れ双方の肉体的な負担は軽減した。
- ・気付ける、すぐに実践できる職員が増えたことで、褥瘡・骨折・尿路感染症・肺炎に罹患する利用者が減り、入院が激減した。

<褥瘡予防>

臀部等に発赤を発見した場合、すぐに看護職員に連絡し処置し、ベッドマットレス、座面クッションの環境を整える等素早い対応が良かった。日頃の臀部洗浄実施も効果のひとつと考える。

<骨折事故予防>

転倒リスクのある利用者には、センサーマットを有効活用し、また座席を集中させ見守りがしやすい環境を作ったことで骨折事故を未然に防げたと考えられる。

<尿路感染症予防>

既往歴のある利用者は、おむつ交換回数を増やし、陰部洗浄を励行することで効果が見られた。

<肺炎予防>

食事中にむせが増えてきた利用者に対しては、姿勢や食事形態の見直しを素早く行った。食後の口腔ケアも徹底してきた。外部からの歯科衛生士により口腔内に疾患のある利用者を選定し、定期的に口腔ケアを実施してきたことも、肺炎予防に

繋がっている。

- ・ケアの平準化、ケアの確認を目的とし、経験3年目までの職員を対象に利用者体験、車椅子使用方法、ベッドメイキングの実践型研修を行った。
- ・ケアについて職員全員と面談を行い、接遇面でのレベルアップ、意識付けが必要と感じレベルアップに努めた。
- ・クラブ活動や規模の小さい行事では、職員自らが進んで計画を立て、実践できるようになってきた。

《29年度に向けて》

- ・新人職員、経験の浅い職員への指導

単に食事・排泄・入浴の3大介護するだけでは、介護の楽しさは生まれない。生活支援の根拠を学びながら、知識や技術を吸収し、自らが成長していく過程を楽しめる職員が増えるようにしていきたい。

- ・教育担当者をおき、教育システムの確立、実践を目指す。

毎朝復唱している施設理念やケア統一「楽な考えはやめましょう。ご利用者の今を大切に」をモットーに『考えることができる職員』『気付ける職員』『実行力のある職員』『接遇力のある職員』『利用者の今を大切に思える職員』作りを目標とする。

(重点項目)

- ① 外部研修への派遣
- ② 社会人基礎研修 (外部講師による全職員対象)
- ③ 介護プロフェッショナルキャリア段位利用によるキャリアアップ
- ④ 施設内研修への出席
- ⑤ 2ヶ月ごとにフロア会議の開催

- ・上級介護職員養成講座で習得した技術を、教育担当者及び副主任が中心となり、現場、フロア会議でアドバイスを行い、介護の平準化を目指す。
- ・主任、副主任が介護職員と定期的に面談を行い、日々の不安等を把握し、早急に解決できるように努める。
- ・正確な生活支援技術の習得により、介護職員の腰痛予防及び利用者への負担軽減に努める。

医務室（28年度）事業報告

看護主任
安藤 あけみ

《 事業内容 》

1. 利用者の情報を共有する
2. 統一した看護を展開する
3. 看護業務について

《 実績 》

平成28年度入院人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	4	7	3	5	6	5	1	7	2	2	1	5

1. 利用者の情報を共有する
2. 統一した看護を展開する
 - ・申し送りノートの活用や月に1回の医務室会議を実施
 - ・ショートステイに関しては、ワークシートの作成
 - ・外部研修への参加を行った
3. 看護業務について
 - ・年間実施一覧
 - 7月 入所者健診 胸部レントゲン 95名
 - 11月 インフルエンザ予防接種 90名（他施設にて6名）
 - 3月 肺炎球菌ワクチン接種 9名
 - ・往診状況
 - 嘱託医回診 8回/月（火、金）
 - 近藤泌尿器科往診 4週間毎
 - 関西サナトリウム往診 4週間毎
 - ないとう眼科往診 3か月毎
 - ファミリー歯科往診（口腔ケアも含む） 毎週月曜日、水曜日
 - ・医療的な管理が必要な方（H29.3.31 現在）

(1)バルンカテーテル	5名	(2)インスリン	1名
(3)経管栄養	5名	(4)ストマ	1名
(5)褥瘡	0名	(6)ペースメーカー	2名
(7)医療的ケア包括指示書	1名		

・感染症対応

MRSA+（咽頭） 1名

結核追跡調査が必要な方（結核患者と同室者） 4名

《 反省 or 検討 》

看護師の退職が続き、医務室内の業務内容など統一したケアが困難な状況もあったが、申し送りノートの活用や月に1回の医務室会議などを実施することで、情報やケアの統一に努めてきた。ショートステイに関しては、ワークシートの作成により情報の共有ができ、利用者の状況を把握しやすくなった。

《 29年度に向けて 》

統一した看護ができるよう手順の見直しを行い、連絡ノート、申し送りノートの活用方法を検討する。看護師間はもちろん、他職種との連携も密に行い、介護職員が安心して介護に専念できるよう看護体制を整える。

管理栄養士（28年度）事業報告

管理栄養士
横山 晶子

《 事業内容 》

1. 季節感とともに、接遇に配慮した食事提供の視点を大切にする。
2. 管理栄養士の業務について

《 実績 》

1. 行事食については事業報告（給—1・給—2）参照
2. 経口・経管分類食数表（月間延べ人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
経口	10453	10681	10231	10935	10925	10670	10828	10679	11099	9826	9992	11026
経管	185	186	138	204	309	235	244	247	259	221	221	406

3. 栄養関係加算算定人数（月間人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
経口 維持	11	11	12	12	14	14	14	11	9	6	6	6
療養	720	744	720	744	744	720	744	720	744	744	672	744

※療養食は延べ人数。療養食の内容は糖尿病食及び減塩食。

《 反省 or 検討 》

1. 28年度の計画「利用者の営んできた生活に近づいた食事を作る。」については、給食委員会での議論等で給食委託会社の全面協力の結果、利用者から「おいしい」と言われる食事を提供することができた。
2. デイサービスのおやつ作りについては、「作って食べる」というだけでなく、雰囲気作りとしてのレクリエーション（映画館・神戸へ小旅行など）趣向もあり喜ばれた。
3. 経管栄養について、1日の提供回数が3回栄養から2回栄養に見直してのスタートであった。しかし、3月に経管栄養の延べ人数が増えた理由は、経管栄養の新規入所者が増えたことと、更に病院からの指示が3回栄養（1日1200Kcal）であった。29年度は経管栄養のトラブルが無いように大上医師に指示を仰ぎ、看護・介護と共に協働する。又、食数表について、今後は経管栄養についての研鑽が必要である。
4. 1月～3月の退所者は、経口維持加算Ⅰの加算算定対象者であった。特養での終末期においては誤嚥性肺炎予防の対応として、経口維持加算の視点が日々のケアについて大切である。29年度は、経口維持加算に不可欠な食事形態及びトロミについて共通認識できるよう、給食委員会で会議する。
5. 新しい試みとして、マリノポリスによる出張回転寿司サービスを実施した。回転台の機械が搬入され本格的であった。デイサービスの利用者は平均7皿食べられ、満足された様子であった。29年度は、「回転寿司が食べられる施設」として3回実施する。

ショートステイ（28年度）事業報告

ショートステイ生活相談員

林 大輔

《 事業内容 》

1. 他の事業所との連携・情報交換を強化
2. 稼働率 100%の維持
3. 余暇時間の充実・温もりのある居室環境
4. 地域に進出
5. チームケアの向上

《 実績 》

1. 他の事業所との連携・情報交換を強化
 - ① サービス担当者会議への参加。 ・参加 47件 ・照会 25件 ・不参加 22件
※（照会⇒ご家族の都合により日程調整困難）
 - ② 相談員会、定例会議、フレッシュ相談員会 計4回参加
 - ③ 緊急時のベッド受け入れ
 - ④ 身寄りのない方の緊急ショートを受け入れを行い、受診や買い物などの付き添いを行った。
 - ⑤ 虐待事例のある方の緊急ショートを受け入れを行い、受診などの付き添いを行った。
2. 稼働率 100%の維持
年間平均稼働率 102.90%と稼働率 100%維持が出来た。
3. 余暇時間の充実・温もりのある居室環境
 - ① ご利用者のニーズに添って、フロアのソファやテーブル配置の変更。
 - ② ご利用者個々の居室レイアウト、必要物品表に添っての居室準備。
 - ③ 午後からのレクリエーションを実施。
4. 地域に進出
 - ① 外出として、しあわせの村散策 2回実施。
 - ② 神出文化祭拝観。
 - ③ 小学校音楽会は地域でインフルエンザが流行した為、拝観できず。
5. チームケアの向上
 - ① 転倒の危険がある利用者に対しては、センサーマットの設置やベッドの配置替えを行い、他職種連携して防止策を講じた。
 - ② 相談員、副主任を中心として、連絡ノートを使用し情報を職員間で共有した。隔月のフロア会議開催が出来なかった。

《 反省 OR 検討 》

- ・神戸市にあるショートステイ事業者全体での年間平均稼働率は 107%とのことであった

が、当施設においては年間平均稼働率 102.90%と平均を下回る結果となった。

そのため、稼働率向上に向けて外部居宅へ空きベッド状況等の情報を提供し、密に連携が図れるように対応していく。また、特養相談員とも連携を図りながら、空きベッドを有効活用できるようにしていく。

- ・生活相談員として各居宅ケアマネジャー、ご家族、各関係職員との間で、ご利用者の情報を確実に伝達できていないことがあったため、ご利用者やご家族にご迷惑をかけてしまうことが見られた。
- ・しあわせの村への散策などの外出はご利用者の方々にも好評だった。

《 29年度に向けて 》

- ・前年度以上に各居宅ケアマネジャーと連携・連絡・報告を図り、新規利用者の紹介に繋がるようにしていくことで、稼働率の向上を目指す。
- ・ご利用者の情報を各居宅ケアマネジャー、ご家族、各関係職員との間で確実に伝達、共有できるようにしていく。
- ・前年度に引き続き、気候が良い時期は、外出の機会を計画する。
また、ご利用者の一日の過ごし方として、午後からはレクリエーションなど楽しく過ごして頂いているが、午前中は退屈そうに過ごされている利用者が見られる。そのため、午前中の過ごし方について、フロア会議などで具体的に検討し、改善していく。

デイサービス（28年度）事業報告

デイサービス生活相談員

山野 さとみ

《 事業内容 》

1. サービスの質の向上
2. 資質の向上
3. 地域との交流
4. 情報の収集
5. デイフロアの環境改善

《 実績 》

1. サービスの質の向上
 - ・機関紙にて、現在おこなっている取り組みなどをご利用者、家族、居宅ケアマネジャーに広報。
⇒ 広報を見たとのことで、新たに契約となるケースがあった。
 - ・行事、外出などの計画を見直し、新たに外食や工場見学を実施。また施設行事、イベントへの参加を呼びかける。
⇒ 外出ニーズは、ご利用者・家族ともに興味があり、臨時での利用者が増加した。

《登録日以外の臨時利用》

区分	行事	参加	行事	参加
施設外	遠足	6名	外食ツアー	3名
	工場見学（御座候）	6名		
施設内	そうめん流し	2名	秋祭り	11名
	回転寿司	2名	家族会	8名
				延べ 38名

2. 資質の向上
 - ・施設内外の研修へ積極的に参加する。
⇒ 職員のスキルが上がり、自発的な発言・行動が多くなった。
3. 地域との交流
 - ・夏祭りに地域の方が参加
⇒ 施設の案内、地域の方と施設職員・利用者の触れ合いが出来た。
 - ・地域ケア会議への参加。
 - ・神出文化祭への参加、作品出展
4. 情報の収集
 - ・総合事業移行への情報収集を図る。
5. デイフロアの環境改善

- ・足浴機2台導入（利用者の健康維持）
- ・トイレの柵を撤去し空間を拡げる（利用者の利便性向上）
- ・カーブミラーの設置（死角を無くし、利用者の動向を把握する）

《 反省 or 検証 》

- ・平成29年度に入り新規利用者も増えたが、それ以上に既存利用者の高齢化により、長期入院、施設（当施設含む）への入所、死亡等増加し稼働率の低迷が続いた。
- ・利用者ニーズを探り、新たな試みを重ねたことで引き出しの量は増え、マンネリ化していたデイサービスの雰囲気も変わってきており、成果に繋がっていくものと期待が持てる。また、職員の質の向上を図っていくことで、より良いサービスの提供が可能となる。
- ・地域との交流、情報の収集により、神出シニアコミュニティの知名度を上げる努力をしてきたが、未だ施設と外界との壁を超えることは出来ていないのが現状であり、今後も一層の努力が必要。

《 29年度に向けて 》

- ・ご利用者・家族のニーズを調査し、新しい企画の立案・実施と現状の評価・分析・見直しをおこなっていき、来て楽しいデイサービスを目指す。
- ・ご利用と気軽に話ができ、利用者に近い環境を作るべくパントリー付近にカウンターを設置する。
- ・職員間の申し送りを充実させ、利用者の小さな声を聞き逃さず、素早い対応とケアの統一を図り、サービスの向上に努める。
- ・便利なデイサービスを目指し、短時間デイを取り入れる。

ケアプランセンター（28年度）事業報告

介護支援専門員

中嶋 健一郎

《 事業内容 》

1. スピード感、聴く力、調整力、発信力、交渉力、観察力を常に意識して業務を遂行する
2. 身近な「福祉相談窓口」の相談者（ケアマネジャー）になる
3. 日常生活支援総合事業開始に向け、情報を収集し迅速に対応する

《 実績 》

1. 利用者、家族の思いを尊重しながら、自立支援を念頭にプランの作成に努めた。一月当たりの相談者件数は、平均で3名以上となり、毎月のケアプラン件数は、年度末において登録件数が上限件数に達した。
2. 年度初め相談件数は少ない状況であったが、各あんしんすこやかセンターから相談件数が増えた。また、病院や他施設からの相談も増えている。
3. 日常生活支援総合事業の研修会に複数回参加し、情報を収集しながらケアプランセンター内でも情報を共有した。

《 反省 or 検討 》

年度初めは、各方面からの相談件数は少ない状況であり、毎月のケアプラン件数は伸び悩んだ。しかし、病院や他居宅介護支援事業所へ訪問することで、徐々に相談件数が増え、ケアプラン数は増加したものの、年間稼働率は76.68%であった。

《 29年度に向けて 》

昨年度同様に選ばれるケアマネジャーを目標とし、各あんしんすこやかセンターや病院、施設から相談に応じることができるよう知識や技術を磨きながら、ケアのネットワークを構築していき、月の稼働率が90%超を維持することを目標とする。また主任介護支援専門員の取得、介護支援専門員の採用し、特定事業所加算を算定する。